



■被災地出張授業……2013年 9月26日

働くということ—社会で求められる力とは

講師：小枝 至 元副代表幹事(日産自動車 相談役名誉会長)

2013年9月26日、IPPO IPPO NIPPON プロジェクトによる被災地出張授業が行われた。今回は、小枝至元副代表幹事が岩手県立久慈工業高等学校を訪れ、全校生徒157名を対象に、働くことの意義、社会で求められている人材、また日本の強みなどについて語った。



働くことは やりがいを感じる

私たちが生活していくには、食べる物や着る物など、さまざまな物が必要になってきます。しかし、食べ物一つを取ってみても、それを作るには多くの人がかかっています。つまり、それぞれが分担して仕事をしているのです。働くとは、この役割分担に過ぎず、働く分野に優劣はありません。

また、働くには二つの種類があります。一つは一般的に仕事といわれている有償のもの、収入のあるものです。もう一つ、家事、育児、ボランティアなど無償のものも仕事です。これがないと生活が成り立ちません。

そして、働くということとはやりがいを感じることです。もちろん、つらいこともあります。毎日同じ時間に会社に行くのはつらいものです。それでも、自分の能力が向上したときや、仲間や

多くの人に自分の仕事が認められたときにはやりがいを感じるはずですが、自分のことだけでなく、指導していた部下が成長したときもそうでしょうか。これは、高校の部活動でも同じではないでしょうか。それから、収入を得て家族が幸せになったときにもやりがいを感じるでしょう。

第一次産業の競争力を高めるには 工業技術が欠かせない

産業界ではグローバルな競争が行われていますが、ここで日本の強いところを再認識してもらいたいと思います。

日本は開発力、規律ある社会、社会的な階級のない社会という点が優れています。そして、日本人は、チームワークで仕事をするのが得意です。優秀なリーダーが一人で考えるより、みんなで考える方が知恵の総和は大きいのです。このチームワークを活かせばグローバル競争で勝つことができるでしょう。

産業面でいうと、私は第一次産業に大きな可能性があると思っています。農業、林業、水産業です。

農業では、今、世界の穀倉地帯であるアメリカやカナダで耕地の荒れが問題になっています。これは化学肥料の使い過ぎが原因です。日本は化学肥料をあまり使わないので、こういった心配はありません。

林業でいうと、国土の70%程度が森

林に覆われている先進国は三つあります。日本はフィンランド、スウェーデンに次いで3位です。人口では日本が圧倒的に多く、開発の余地はまだあります。

水産業では、マグロやうなぎといった水産資源が減少していますが、日本の養殖漁業の技術は世界最高水準です。

今後、これら第一次産業の競争力をさらに高めていくポイントは、皆さんが学んでいる工業技術をもっと導入することです。土木技術、建築技術、電子技術、機械技術、これらの技術も世界では最高水準です。チームワークや工業技術など、日本の強いところを活かして、ぜひ皆さんも世界の発展にチャレンジしてほしいと思います。

将来の希望を持って “一隅を照らす”こと

日本は、16歳から64歳までの仕事ができる生産年齢人口がどんどん減少しています。これは大変な問題で、日本の経済成長を妨げてしまうこととなります。これを解決する一つの方法が、女性の活躍を推進することです。つまり、もっと女性に社会で力を発揮してもらおうということです。そのためには、保育所の整備、産休、育休といった制度の充実も必要ですが、それ以上に人々の考え方を変える必要があります。

まず、男性の長時間労働をやめるこ

とです。長時間労働と効率は反比例します。それから、育児、家事は夫婦で分担すること、つまり男性はイクメンにならなければいけません。また、子どもは社会全体で育てるという発想が必要です。

グローバル化に当たっては、語学も大切ですが、それよりも文化や考え方の差を理解できることが重要です。日

本の歴史や文化と一緒に、ふるさとの歴史や文化も学んでください。さらに、日本人としての基本を身に付けてください。具体的には普段の生活を通して時間と約束を守ることが大切です。

そして、将来への希望を持ってください。希望はどんどん変わっても構いません。そのためには努力も必要です。しかし、無理をしてはいけません。努

力と無理は違います。自分を大切に、健康な心と体をつくってください。

最後に期待を込めてお願いがあります。“一隅を照らす”国の宝になってください。一隅とは、家庭や学校や自分のおかれた場所です。そこを照らす、つまり精いっぱい努力し、明るく輝く人こそ、何物にも代え難い国の宝であるということです。

生徒との質疑応答

Q 希望を持つことが大切だということですが、小枝さんはどんな希望を持っていましたか？

A 中学時代は野球で東京の大会に出ることでした。ある試合で3番に抜擢されましたが、ランナー二塁の場面で三球三振して屈辱も味わいました。高校の時は歴史学者になろうと思いましたが、これもなるための道が見いだせなかった。会社に入ってから、2回、会社が倒産しそうになったこともあります。それでも、必ず立て直すと希望

を持って、最大限の努力をしました。

Q 倒産の危機に直面した時、社員の皆さんはどう対処したのですか？

A 日産自動車のような大きな会社になると、現場の社員は倒産するかどうかといった危機意識を持ちづらものです。倒産するかどうかは、単に利益があるないだけではありません。ですから、まず危機意識を社員に持たせることが重要です。その上で、いかにみんなで力を合わせるかを考え、社内で競争しました。社内といっても、日

本だけではなく、海外もあります。どうしたら、もっと効率よく仕事ができるのかを、みんなで力を合わせて考えるのです。つまり、チームワークです。その文化をつくれたことが、良かったと思っています。



生徒の感想

●仕事の中で自分の可能性や夢を見つけしていくことは大切だと思いました。また、「日本人としての基本を身に付ける」という言葉が印象に残っています。社会人として世の中に出る前に、なるべく多くの日本の文化について学びたいと思います。

●今回の講演を聴いて日本のことについてあらためて知ることができました。日本の「チームワーク」という話をされていて、自分もそうだと思います。学校でも、一人で勉強することもあります。お互いに成績を上げるために切磋琢磨しているので、それもチームワークだと思いました。これからの人生ももっとチームワークを大切に頑張っていきたいです。

●講演を聴いて、私は会社とはどういった人たちに支えられているのか、社会人になり働くとはどういうことなのかを教えていただきました。日産自動車が倒産の危機に陥った際に、情報を企業の第一線まで伝え、会社全体の士気を上げて乗り越えたという話を聞いて感銘を受けました。

●働くとは何か、働くために何が必要なのか知りました。

そして、日本の強いところを活かし、世界で発展していくことに参加してほしい、という言葉に感動しました。

●私たちは、これからの日本を支えていかなければならない人間であることを知りました。今の日本の強い部分と弱い部分も知りました。自分に何ができるかを考える機会にもなりました。「一隅を照らす」という言葉を聞いて、私もそういう人生を歩めるよう目標を明確にし、残り少ない高校生活を充実したものにしたいと思います。

●「仕事はつらいこともあるが、やりがいもある」という言葉にすごく共感しました。私は将来、建築家になる夢があります。つらいこともたくさんあり、大変だと思いますが、今回の授業で勉強したことを思い出して頑張りたいと思いました。

●今回の授業で学んだことは、どんなに苦しくても明日はくるから希望を捨てずに頑張るとことです。また、新しいことにチャレンジしていくことです。この授業で学んだことをこれからの生活に活かしていきたいです。

●今回の講演で、工業系のことに関心を持つことができ、これから努力して資格などを取りたいと思った。